

ロールモデル講演会 実施報告書

【演題】病院薬剤師が行う臨床研究について

【講師】錦織 淳美 氏（岡山大学病院薬剤部・薬剤師、Pharm. D.）

【日時】令和2年12月4日（金） 13:00～14:30

【場所】岐阜薬科大学（Zoomによるオンライン講演会）

【参加者数】132名（うち女性研究者 4名）

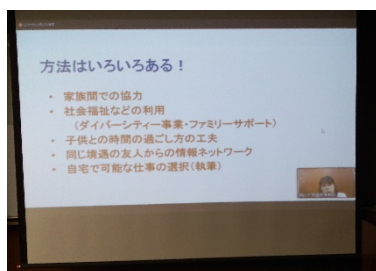
岐阜薬科大学 129名、岐阜大学 1名、岐阜女子大学 1名、アピ(株)1名



講師は岐阜薬科大学卒業生であり、卒業後にアメリカのフロリダ大学薬学部にて臨床薬剤師の学位である Doctor of Pharmacy (Pharm.D.) を取得した経歴を持つ。現在は大学病院の薬剤師として、調剤や服薬指導などを行う薬剤師業務、臨床研究活動、大学の講義で教壇に立つなど、幅広く活躍されている。

医療人が行う研究について、最終目的は研究成果を病院に還元しよりよい医療体制をつくることであることから、着眼点、研究計画、科研費の申請について、講師の研究概要や実績紹介を含めて話をいただいた。また実績だけでなく、今度の課題と対策についても言及していただき、病院薬剤師として研究を行うとはどういうことなのか、学生にも分かりやすくお話しただけだ。

次に海外の状況として、科研費で計画申請していたり、大学の教育プログラムで随行したりした海外の薬局の状況について紹介があった。退院後フォローアップシステムなど、日本とは違うシステムが採用されており、優れた点はすこしでも病院の業務改善に採り入れられないか、研究を進めている。続いて、薬剤師シミュレーション教育の開発について紹介があった。薬剤師だけではなく、栄養士や看護師とも連携して行う訪問医療行為での薬剤師としての技術向上と意識啓発につながっている。



最後に、ワーク&ライフ・バランスのとり方について、岡山大学および病院の取組みについて紹介いただき、参考になるものであった。講師は現所属先で育児休暇取得後の復職をはたした第一号であることから、経験に基づいた精神面や実質面での参考になる話が多く聞かれた。特に、「人生の優先順位をつけること。気力を維持する工夫をすること。」をキーワードに挙げられ、聴講者にも励みになったと思われる。

れる。

病院薬剤師としての業務、臨床研究者としての取り組み、大学教員としての業務など、様々な働きや取り組みについて紹介してもらい、普段ではなかなか知ることのできない、大学病院勤務の薬剤師の姿を具体的に知ることができた。また、結婚、出産などライフイベントの話だけではなく、仕事に取り組む姿勢について多く話していただき、学生にとっては将来を考えるきっかけにもなり、大いに参考になる有意義な講演会であった